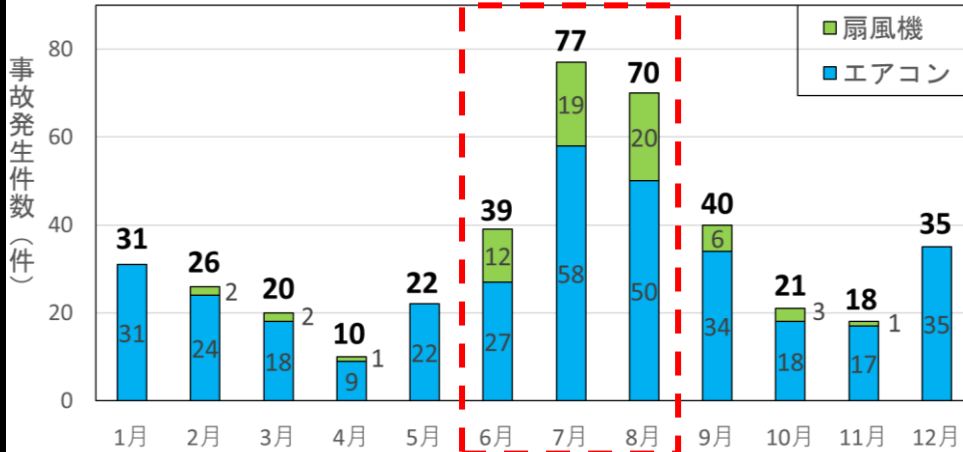




夏に急増するのは熱中症だけではありません！ ～エアコン・扇風機の火災事故に注意～

夏の時期に活躍するエアコン^{※1}や扇風機^{※2}ですが、使用頻度の増加に伴い事故が多く発生しています。独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE（ナイト））は、夏に向けてエアコン及び扇風機の使用について気を付けるポイントをお知らせします。



内部部品の経年劣化により発火する扇風機の再現映像

図1 2018年度から2022年度に発生したエアコン・扇風機の月別事故発生件数

NITEに通知された製品事故情報^{※3}において、エアコン及び扇風機の事故は2018年度から2022年度の5年間に合計409件（エアコン：343件、扇風機：66件）あり、その約半数に当たる186件が6月から8月の夏期にかけて発生しています。さらに、事故のほとんどが火災事故となっており、注意が必要です。

夏の時期は熱中症対策として、エアコンや扇風機といった室温や体温を下げる効果のある製品を活用することは大変有効ですが、急激に使用頻度が増加するため、製品にとっても過酷な季節です。特に、古い製品やリコール対象製品、あるいは施工に問題を抱えている場合は、これまで正常に使えていたとしても酷使や経年劣化により事故のリスクが高まります。

いざ夏本番にエアコンや扇風機が原因で火災事故等に遭ったりしないよう、本格的な暑さを迎える前に気を付けるポイントをしっかりと確認し、快適な夏を過ごしましょう。

■エアコンの気を付けるポイント

- 不具合（水漏れ・異音や異臭がする・エラー表示が出る・意図せず停止する）がないか点検する。
- 取り付け・取り外し・内部洗浄といった工事や作業は、専門の知識や資格を有する業者に依頼する。

■扇風機の気を付けるポイント

- 不具合（動きが悪い・異音や異臭がする・モーター部分が異常に熱い）がないか点検する。
- 使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く。

■エアコン・扇風機共通の気を付けるポイント

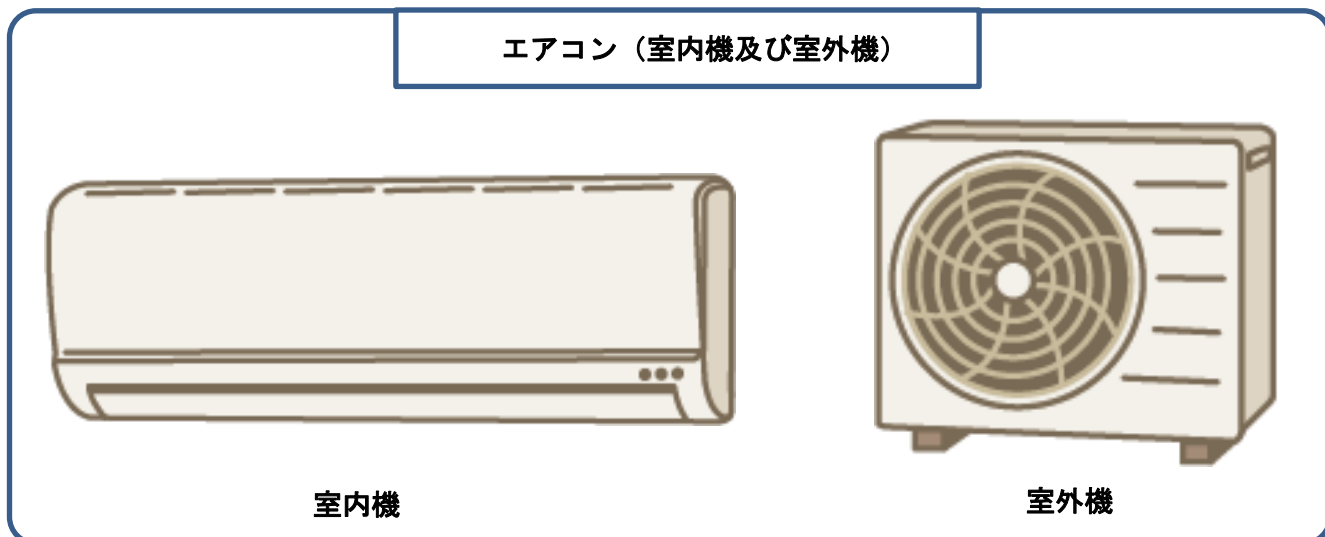
- 点検の結果、少しでも異常がある場合には使用を中止し、専門の知識や資格を有する業者に点検を依頼する。
- 使用している製品がリコール対象ではないか確認し、該当製品の場合は使用を中止し、事業者に連絡する。

(※1) ルームエアコン（室外機、室内機いずれも含まれます）。

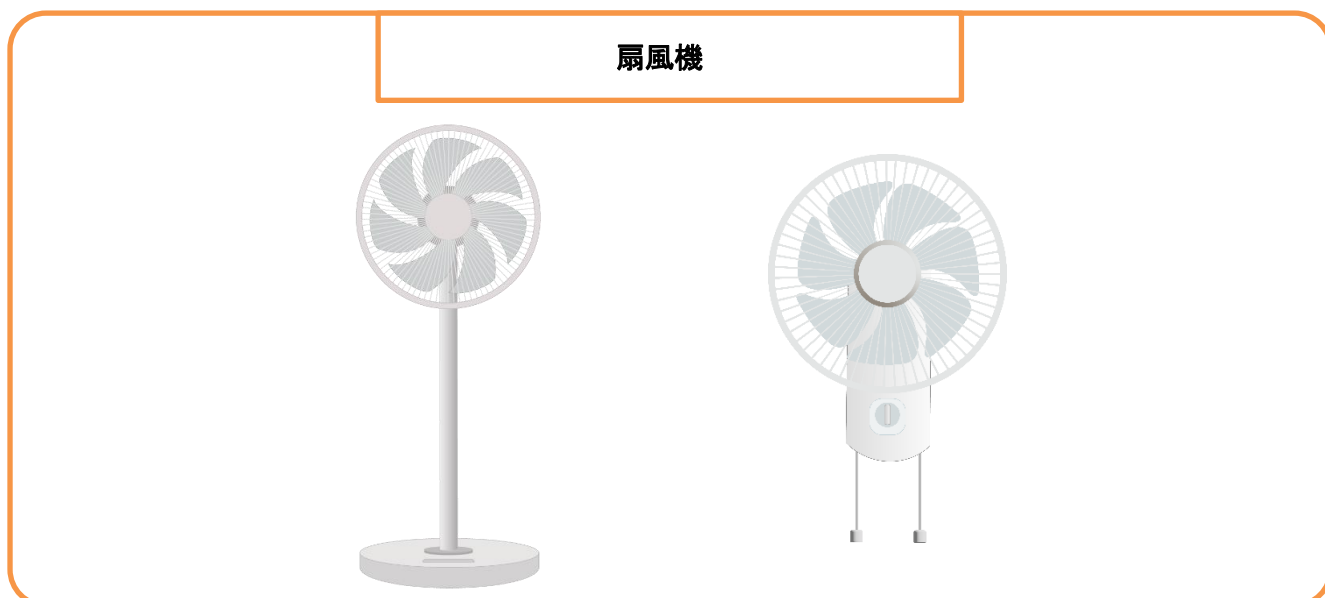
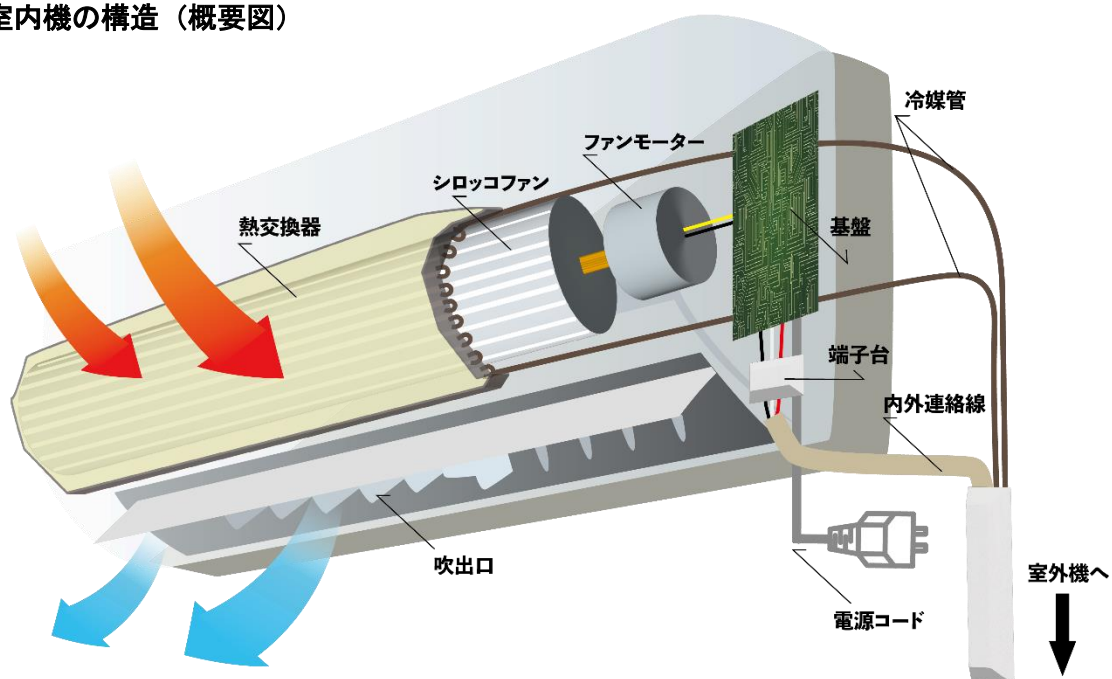
(※2) サーキュレーターや電気冷温風機、電源がソーラー発電・乾電池・USB端子により給電するもの（携帯用扇風機など）は除きます。

(※3) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含みます。

本資料で対象とする製品



エアコン室内機の構造（概要図）



1. エアコン・扇風機の事故発生状況

NITEに通知された製品事故情報のうち、2018年度から2022年度に発生したエアコンの事故343件及び扇風機の事故66件（計409件）について、事故発生状況を以下に示します。なお、調査中の案件（エアコン：2021年度3件、2022年度44件、扇風機：2022年度9件）も含まず。

1-1. 年度別の事故発生件数

年度別の事故発生件数を図2に示します。409件中383件（エアコン：320件、扇風機63件）が火災事故となっており、9割以上を占めています。

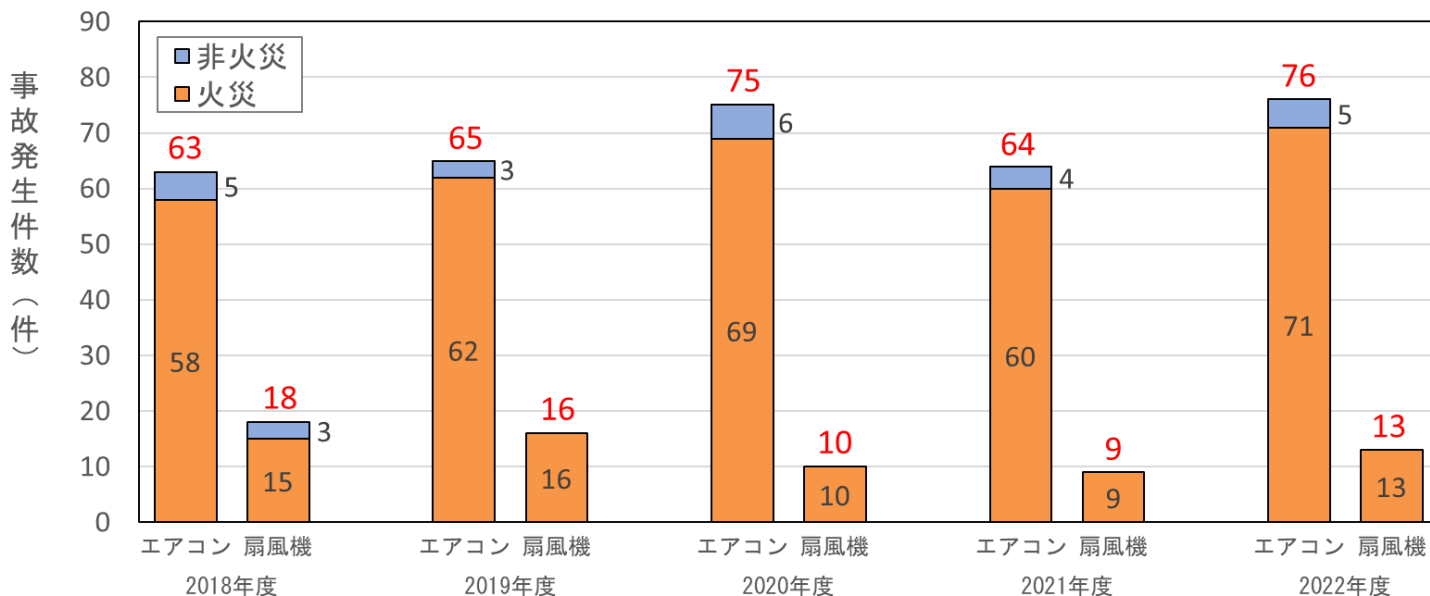


図2 エアコン・扇風機の年度別事故発生件数

1-2. 原因別の事故発生件数

エアコンの事故343件のうち、調査が完了している296件の事故原因別の事故件数を図3に、また、扇風機の事故66件のうち、調査が完了している57件の事故原因別の事故件数を図4に示します。エアコンの事故は、「製品の不具合以外による事故」が約半数を占めており、洗浄液が付着したことによる事故や配線・電源コードの途中接続による事故などがありました。扇風機の事故は、長期使用での「経年劣化による事故」が多くなっており、「経年劣化が疑われる事故」を含めると、事故の約半数を占めています。その他、エアコン及び扇風機ともに「製品の不具合による事故」が起きており、リコール対象製品による事故などがありました。

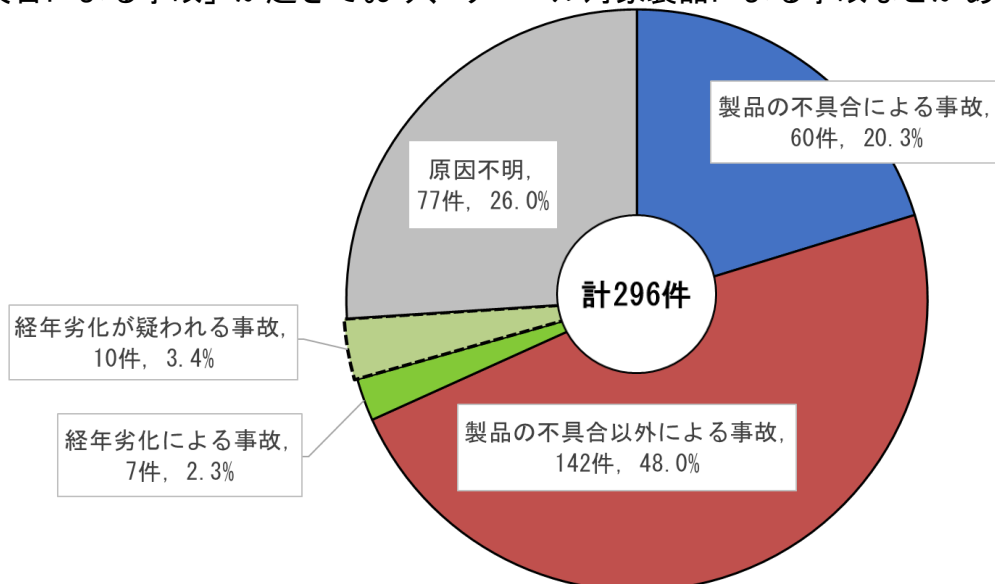


図3 エアコンの事故原因別 事故発生件数

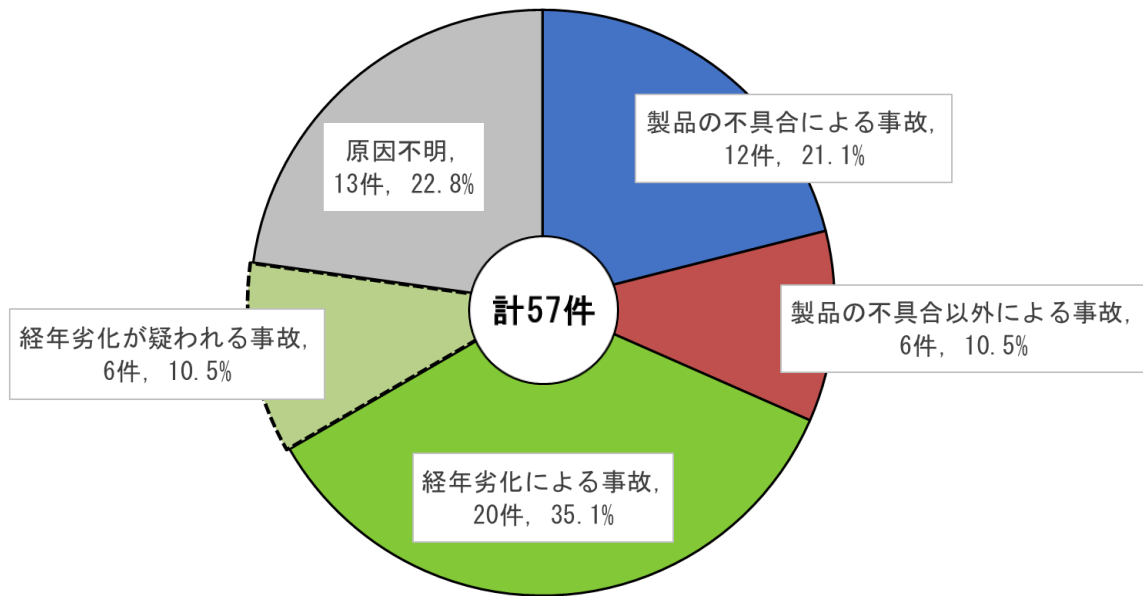


図4 扇風機の事故原因別 事故発生件数

1-3. 事故の被害状況

エアコン・扇風機の事故における被害状況別の事故件数及び被害者数を表1、表2に示します。製品が壊れるだけでなく、製品の発火等による周りへの被害が多く起きており、人的被害も発生しています。

表1 エアコンの被害状況別事故件数^{※4} ()内は被害者数

被害状況	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	総計
死亡	2 (3)	2 (2)	2 (2)		3 (3)	9 (10)
重傷	1 (1)	3 (3)			1 (2)	5 (6)
軽傷	3 (5)	1 (2)	4 (6)	2 (2)	3 (7)	13 (22)
拡大被害	45	51	54	47	56	253
製品破損	12	8	15	15	13	63
総計	63	65	75	64	76	343

表2 扇風機の被害状況別事故件数^{※4} ()内は被害者数

被害状況	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	総計
死亡		1 (1)				1 (1)
重傷		(1)				(1)
軽傷	2 (3)				1 (2)	3 (5)
拡大被害	13	11	6	7	7	44
製品破損	3	4	4	2	5	18
総計	18	16	10	9	13	66

(※4) 人的被害（死亡・重傷・軽傷）が複数同時に起きている場合は、最も重篤な分類で事故件数をカウントし、重複カウントはしていません。また、製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としています。

2. エアコン・扇風機の事故事例

2-1. エアコンの事故事例①（施工に問題を抱えている場合の事故）

事故発生年月 2020年8月（神奈川県、年齢・性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

エアコンを使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

電源コードを切断し、別の電源コードを接続していたため、接触不良により異常発熱し、出火に至ったものと考えられ、製品の不具合以外による事故と推定される。なお、取扱説明書及び工事説明書には、「電源コードを破損したり加工したりしない。」旨、記載されている。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

エアコン、途中接続

2-2. エアコンの事故事例②（リコール対象製品による事故）

事故発生年月 2019年11月（大阪府、50歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

エアコン及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

エアコンのファンモーターの製造工程上の不具合により、ファンモーターに内蔵された電子部品が短絡し、過大な電流が電気回路に流れたことでファンモーターが発熱・発火し、出火に至ったものと考えられる。

なお、製造事業者は事故の再発防止を図るため、2014年にホームページに情報を掲載するとともに新聞社告や販売ルートへのダイレクトメールの発送などを行い、当該製品を含む対象製品について、無償で点検、修理を実施している。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

エアコン、リコール

2-3. 扇風機の事故事例①（リコール対象製品による事故）

事故発生年月 2019年10月（山形県、年齢・性別不明、製品破損）

【事故の内容】

扇風機を使用中、当該製品を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

扇風機のモーター組み付け工程において、モーターリード線を首振り部に挟み込んだため、芯線の一部が断線し、使用時の首振り運転に伴い断線が進行して接触不良により異常発熱し、モーターリード線の異極間で短絡、スパークし、出火に至ったものと推定される。

なお、製造事業者は2017年にホームページに情報を掲載するとともに新聞社告を行い、当該製品を含む対象製品について、無償で製品交換・設置を実施している。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

扇風機、リコール

2-4. 扇風機の事故事例②（長期使用での経年劣化による事故）

事故発生年月 2019年8月（滋賀県、80歳代以上・女性、製品破損）

【事故の内容】

40年以上使用している扇風機を運転中、当該製品を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

扇風機の内部部品の劣化により内部短絡が生じて、発煙に至ったものと推定される。

【SAFE-Lite 検索キーワード例】

扇風機、長期使用

3. エアコン・扇風機を使用するうえで気を付けるポイント

エアコンの気を付けるポイント

○不具合がないか確認する。

故障による事故は、使用前や異常な症状が出た時の点検によって防ぐことができる可能性があります。エアコンが正常に動作することを事前に確認しておくことで、事故のリスクを低減しましょう。

＜エアコン点検のポイント※5＞

- 電源プラグや室内機のフィルターにほこりがたまっていないか、室外機の上や前に物を置いていないかを確認し、清掃や片付けをしましょう。また、ドレンホースの排出口に詰まりがないかもチェックしましょう。
- 試運転を行い、以下のような異常がないかを確認しましょう。
 - ☑ 室内機から水漏れする
 - ☑ 普段とは違った、異音・異臭がする（室内機及び室外機）
 - ☑ エラー表示が出る、運転が意図せず停止する
- 異常が確認されたりした場合には、電源プラグを抜いて販売店やメーカーに相談し、必要に応じて点検を受けましょう。

（※5）一般社団法人日本冷凍空調工業会「エアコンシーズン前点検パンフレット」を参考に記載
https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/air_conditioner/air_conditioner_maintenance.pdf

○取り付け・取り外し・内部洗浄といった工事や作業は、専門の知識や資格を有する業者に依頼する。

エアコンの取り付け・取り外し・内部洗浄といった工事や作業には、専門の知識が必要であり中には資格が必要なものもあります。また、据付説明書や取扱説明書で禁止されている行為がありますので必ず確認しましょう。特に、以下の行為は重大な事故に至るリスクがありますので注意してください。

⚠電源コード・配線の加工

電源コードの継ぎ足し接続（ねじり接続）、内外連絡線を途中で接続するような加工は行わないでください。接続不良により、発煙・発火するおそれがあります。

また、エアコン専用設置されているコンセントに電源プラグを差し込んでください。エアコンは大電流が流れる場合があるため、延長コードやテーブルタップなどを用いると異常発熱し、発煙・発火するおそれがあります。

電気工事は、有資格者（電気工事士）による実施が求められています。電源コードや電源プラグに不具合が生じた際は、必ず電気工事業の資格を有した業者に相談するとともに、コンセントの移設などの電気工事は、電気工事士の資格を有した者によって行われるように依頼してください。

（参照：経済産業省 家庭用エアコンの設置・修理の工事について）

https://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/electric/detail/koji_2.html



電源コードの継ぎ足し接続（ねじり接続）

コードの加工部分が発火

⚠ エアコンの内部洗浄※6

エアコンの内部洗浄を行う際は、絶対に電源配線、電源基板などやファンモーターなどの電気部品に洗浄液がかからないよう十分に注意する必要があります。誤った方法で内部洗浄を行うと、洗浄液などが電源配線、電源基板などの電気部品に付着してトラッキング現象※7を起し、発煙・発火するおそれがあります。エアコンの内部洗浄は販売店やメーカーに相談し、専門の知識を有する業者に依頼するようにしてください。



内部洗浄



内部洗浄の不備による発火

- (※6) 本資料における内部洗浄とは、液状の洗浄剤などを噴霧し機器内部の汚れなどを洗い流すことを指します。各機器の取扱説明書に記載されているフィルターなどの手入れは該当しません。
- (※7) 非導電部に付着したほこりや水分により電気の通り道（トラック）が生成され、異常発熱する現象。

扇風機の気を付けるポイント

○不具合がないか確認する。

以下のような不具合が起きる場合は、使用を中止して、電源プラグをコンセントから抜き、購入店または製造・輸入事業者の修理窓口にご相談してください。

- ☑ スイッチを入れても羽が回転しない。
- ☑ 電源コードに触れると急に羽が回転する／回転が止まる。
- ☑ 羽の回転が異常に遅い／不規則で安定しない。
- ☑ 羽の回転時に異音／振動がある。
- ☑ 首振り動作が不規則／異音がする。
- ☑ モーター部分が異常に熱くなる／焦げ臭いにおいがする。

(参考情報) 一般社団法人日本電機工業会が点検及びお手入れのポイントをまとめています。

<https://www.jema-net.or.jp/Japanese/ha/senpu-ki/tenken.html>

○使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く。

扇風機による事故の中には、「スイッチを入れたものの動かなかつたため、そのままにしていた」という状態で事故に至った事例も報告されています。特に製造から長期間経過した扇風機においては、使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。

エアコン・扇風機共通の気を付けるポイント

○点検の結果、少しでも異常がある場合には使用を中止して専門の知識や資格を有する業者に点検を依頼する。

特に、製造から長期間経っている製品は、部品が劣化して火災のおそれがあるので、少しでも異常がみられる場合は使用を中止し、製造事業者などの専門知識や資格を有する業者に点検を依頼してください。異常や経年劣化が疑われる製品は、新しい製品に買い替えるのを勧めます。

なお、2009年4月以降に製造または輸入されたエアコンや扇風機には標準使用期間が表示されています。使用中の製品を確認し、買い替えの目安としてください。2009年4月より前に製造または輸入された古い製品や、標準使用期間を過ぎた製品を使い続ける場合は、既述の各「気を付けるポイント」に特に注意してください。

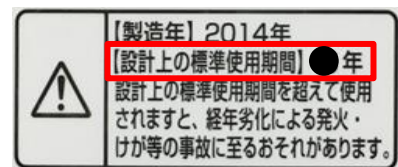
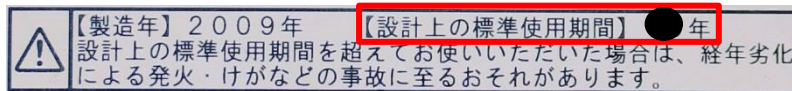
<長期使用製品安全表示制度>

エアコン、扇風機、電気洗濯機（乾燥装置を有するものを除く）、換気扇、ブラウン管テレビの5品目において、製品の長期間使用に伴う経年劣化による事故を防ぐため、「長期使用製品安全表示制度」が設けられています。

2009年4月以降に製造または輸入された5品目においては、「製造年」、「設計上の標準使用期間」、「設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火・けがなどの事故に至るおそれがある旨」の表示が義務付けられています。



製品の表示場所例



長期使用製品安全表示制度 表示イメージ

○使用している製品がリコール対象ではないか確認し、該当製品の場合は使用を中止し、事業者に連絡する。

エアコン及び扇風機のリコール対象製品による事故が発生しています。お持ちの製品がリコール対象かどうか確認し、事故を未然に防ぎましょう。

リコール対象製品による事故はリコール開始から10年以上使用した後に発生した事例があり、長期間にわたり使用できている製品であってもリコール対象製品である場合があります。

リコール製品をお持ちの場合は、不具合が生じていなくても使用を中止し、お買い求めの販売店や製造・輸入業者に確認や相談をしてください。

事業者、消費者庁、経済産業省及びNITEなどはホームページでリコール情報を掲載しています。お持ちの製品がリコール対象製品かどうかを確認することができます。

【NITE AR-SHOT（ナイト アルショット）のご紹介】

NITEが公開しているiPhone®向けアプリ『NITE AR-Shot』を使用することによって、製品のリコール情報をスマートフォンのカメラ機能を使って調べることができます。

・アプリ公式サイト

<https://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/ar-shot.html>



【消費者庁のリコール情報検索サイトのご紹介】

消費者庁のリコール情報サイトにおいて、最新のリコール情報や、キーワードによるリコール情報の検索を行うことができます。

さらに、「リコール情報メールサービス」に登録することでリコール情報が提供されます。



<https://www.recall.caa.go.jp/>

事故品・事故事例を確認

○過去にどのような事故が発生しているか確認する。

NITE はホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「SAFE-Lite（セーフ・ライト）」のサービスを行っています。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称（製品）に関連する事故の情報が表示されます。

また、事故事例の【SAFE-Lite 検索キーワード例】で例示されたキーワードで検索することで、類似した事故が表示されます。



<https://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/safe-lite.html>

お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 大下 龍蔵

担当者 製品安全広報課 宮川 七重、山崎 卓矢、岡田 大樹

Mail : ps@nite.go.jp

Tel : 06-6612-2066

参考情報

● 製品の不具合以外による事故について

エアコン及び扇風機の「製品の不具合以外による事故」の事象別事故件数を表1及び表2に示します。製品内部に出火の痕跡はなく、外火による延焼の可能性が疑われる事故が多く発生しています。特に、室外機の周囲に可燃物を置いておくと、着火した際に室外機に燃え移り大きな火災に至るおそれがあるため、可燃物を置かないように注意してください。また、ダンボールやごみなどを置いておくと、小動物や虫などのすみかとなり、製品内部に侵入して配線をかじったり、電源基板に接触したりすることによって短絡して発火するおそれもあります。

表1 エアコンの「製品の不具合以外による事故」の事象別件数

事故事象	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	総計
製品からの発火痕跡がなく、延焼が疑われるもの	13	15	20	31	17	96
洗剤の付着などによる内部配線の発火	3	8	2	1		14
継ぎ足し接続（ねじり接続）などによる電源コードの発火	1	2	3	2	2	10
内外連絡線の途中接続部から発火	1	3	1	2	1	8
空気の混入による室外機コンプレッサの破裂	2	1	2	1		6
小動物などが侵入したことによる基板の発火		1	1			2
その他		2	3	1		6
総計	20	32	32	38	20	142

表2 扇風機の「製品の不具合以外による事故」の事象別件数

事故事象	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	総計
製品からの発火痕跡がなく、延焼が疑われるもの	2				1	3
過度な力が加わったことなどによる電源コードの発火		2		1		3
総計	2	2	0	1	1	6



ペットボトルの収れん^{※1}



タバコの不始末

図1 外火により室外機が焼損する可能性があるシチュエーション

(※1) 水が入ったペットボトルが凸レンズのように作用して、太陽光が一点に集まり、可燃物が発火すること。